

平成26年度 登別市下水道事業の概要

1 概 況

(1) 総括事項

本年度は、年間有収水量が前年度に続き減少したほか、資本費の高止まりなどもあり、引き続き厳しい経営環境に置かれました。

こうした中、下水道事業は、平成26年4月1日より、地方公営企業法（昭和27年8月1日法律第292号）第2条第3項の規定に基づき、同法の財務規定等を適用する地方公営企業に移行しました。移行初年度である平成26年度においては、有収水量の減少など厳しい経営環境に置かれていることを踏まえ、維持管理経費等の縮減に努めることはもちろん、ライフサイクルコストを低減する観点から、施設の効率的な維持管理に資する施設整備事業を重点化するなど、公営企業としての経済性を最大限発揮し、効率的な経営に努めました。

ア 業務状況

年間有収水量は、公共下水道事業で前年度に比べ34,530^{m³}減少の3,175,988^{m³}、個別排水処理施設事業で前年度に比べ970^{m³}増加の13,476^{m³}となりました。

また、接続戸数（浄化槽設置基数）は、公共下水道事業で前年度に比べ235戸増加の19,989戸、個別排水処理施設事業で前年度に比べ4基増加の62基となりました。

イ 建設改良事業

管渠建設費においては、中央町地区及び若山町地区の雨水浸水対策として、鉄南1号幹線雨水管渠新設工事、若山町地区雨水管渠新設工事を実施したほか、汚水管渠については、次年度の建設改良を控え、既設管のたるみが著しい常盤町地区の汚水管渠改良に係る実施設計などを行いました。

また、処理場建設費においては、主要設備機器の老朽化が進んでいることから、下水道機能の停止を未然に防止するとともに、ライフサイクルコストの最小化を図るため、登別市下水道長寿命化計画に基づき、水処理設備の更新工事などを実施しました。

ウ 施設の現況

本年度末における施設の現況は、次のとおりです。

- ・ 終末処理場 若山浄化センター
(施設構成) ポンプ棟、オキシデーションデッチ、最終沈澱池
塩素混和池、汚泥処理棟、送風機棟
- ・ ポンプ場 3カ所（若草ポンプ場、幌別ポンプ場、登別ポンプ場）
- ・ 管渠 汚水管 延長 252,333.23m
雨水管 延長 2,851.70m

エ 財政状況

(収益的収支)

収入は、営業収益6億5,475万2,385円(うち使用料収入5億7,334万9,815円)、営業外収益11億8,824万916円の合計18億4,299万3,301円となりました。

これに対し支出は、営業費用14億3,386万1,349円、営業外費用3億9,573万6,189円、特別損失1,233万3,253円の合計18億4,193万791円となり、収支差引による当期純利益は106万2,510円となりました。

(資本的収支)

収入は、企業債収入7億5,060万円、負担金及び分担金収入3,382万2,544円、補助金収入3億3,397万8,789円の合計11億1,840万1,333円となりました。

これに対し支出は、建設改良費5億4,812万2,562円、企業債償還金11億1,733万5,131円の合計16億6,545万7,693円となり、収支差引による不足額は、5億4,705万6,360円となりました。

この不足額につきましては、損益勘定留保資金などで補てんしました。